

■生活環境施設の現状と地域特性

- ・八尾市南部には小規模な街区公園などしか存在しないため、レクリエーションなどに供される広々とした公園が不足している。
- ・北方面に未開設の近隣公園が2ヶ所計画されており、近隣公園が整備されれば、南方面の公園誘致圏（500m）を補完する配置となる。
- ・JR八尾駅と八尾南駅を結ぶバス路線が計画地東側の（都）大阪八尾線を通っており、公共交通機関によるアクセス性は比較的良好である。
- ・周辺には地域コミュニティの醸成を支援する公共施設が極めて少ない状況にある。
- ・人口増加率が-1.7%（H4～18年）と人口が漸減している八尾市の中で、周辺が位置する竜華、大正地区はそれぞれ+1.2%、+9.5%と今なお人口が増加しており、周辺に新興住宅が多く建ち始めていることから、今後、発展してゆく地区であるといえる。



北側住宅地



東側住宅地

- ・古くからの街並みが残る北木本と木本の旧市街の中間部に位置している。
- ・かつて柏原船が運行していた歴史性ある平野川が東接して北流しており、歴史解説のスポット整備が進められている。



北木本旧市街



木本旧市街

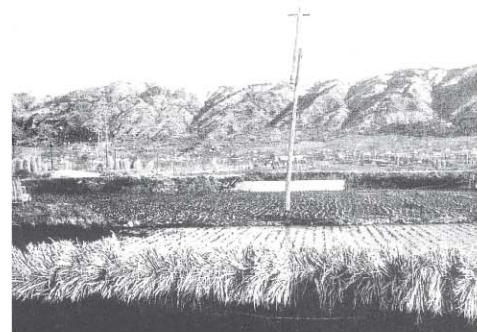


柏原船と荷揚げ場の復元

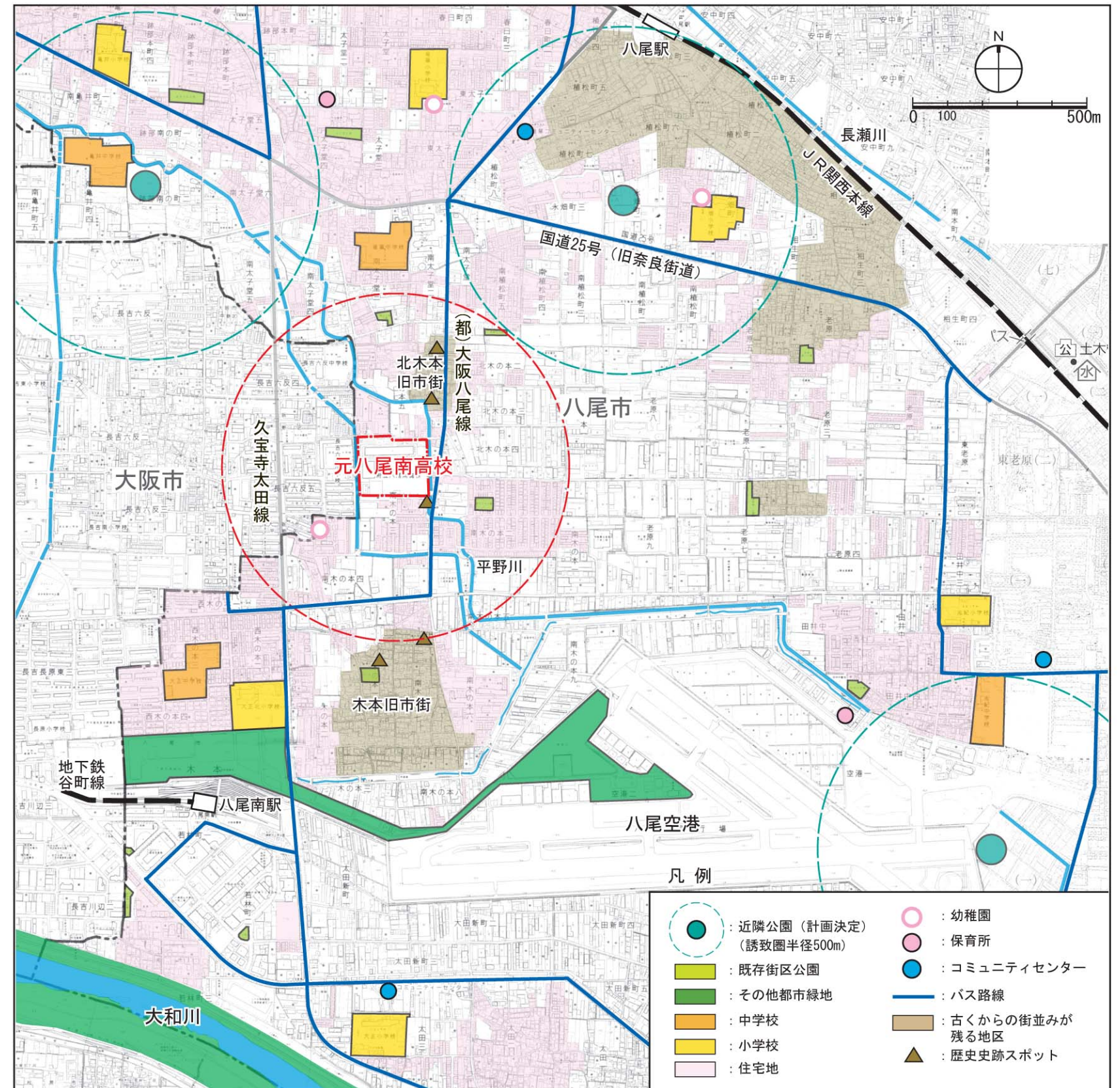
- ・八尾の原風景は、金剛生駒山系の山並みを背景にして、水田や綿畑などの平野の中に集落や樹林の高まりが点在している田園風景であるといえる。



昭和8年の計画地周辺地図



八尾市内 河内平野から高安山を望む（昭和35年ごろ）



■周辺地域の生活環境・地域特性の課題

- 市民の憩い・レクリエーションの場となる広々とした公園の創出
- 地域コミュニティの醸成を図る公共サービス施設の充実
- 北木本、木本の旧市街地や拡大発展しつつある新興住宅地との交流の場の創出
- 歴史性を生かした整備が進められている平野川と連携した空間整備
- 地域の原風景を継承した街の顔となる風景づくり